



26 焼板クラフト

青森県立種差少年自然の家



○活動の概要○

まきで火をおこし、杉板を焼きます。焼板をたわしや布で磨いてきれいな木目の板を作ります。

1 ねらい

仲間と協力して火をおこし、焼板を製作する活動を通して、自然物のもつ美しさを感じさせます。
(小学校 図画工作 中学校 美術)

2 場所・人数・期間・時間

- ① 場所・人数 キャンプ場（かまど） 120人以内（1グループ5人程度）
- ② 期間 通年
- ③ 時間 2～3時間

3 職員の支援について

物品貸出し時に職員がつきます。依頼があれば活動支援に入ることができます。

4 準備物

区分	準備物	備考
団体	・マッチ ・新聞紙 ・作品を入れる袋	
個人	・野外活動に適した服装（長袖、長ズボン） ・帽子、タオル等 ・軍手 ・布きれ、ビニール袋 ※マスク	・すべり止め付きは不可
自然の家	・たわし ・火バサミ ・マッチ・ライター ・十能 ・ほうき	
斡旋可能	・杉板 ・まき（1束で3グループ分程度）	・1枚 70円（並）100円（大） ・1束 200円

5 引率者の役割分担

係名	役割
代表責任者	・全体の掌握、職員との連絡調整にあたる。
救護係	・緊急時の救護にあたる。

6 活動の流れ

- ① 用具の準備と諸注意
- ② 作り方の説明
- ③ 製作
- ④ まとめ・片づけ

7 その他

- ・用途に応じて、穴をあけたり、くさりやひも等で装飾したりすれば、置き物、壁掛け等として活用することができます。
- ・アクリル絵の具で絵付けをすることができます。(ただし自然の家では斡旋していません。)
- ・他団体の利用状況によってかまどを使えない場合には、一斗缶を使用して営火場で行うことができます。

※活動日程の都合上、絵付けについては、実施しない団体がほとんどです。

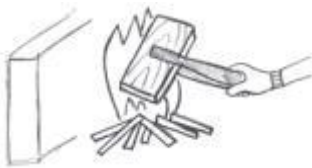
※火を使う活動なので、すべり止め付き軍手は溶ける可能性があります。

《資料》焼板の作り方

①



②



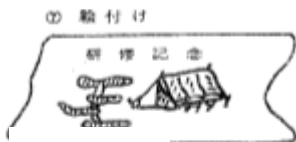
③



④ 布きれでよくふき取る

※⑤以降については持ち帰ってからの活動になる場合がほとんどです。

⑤



⑥ 乾燥

⑦ 装飾

⑦



① まきに火をつける。

- ・ 風向きやまきの組み方に気をつける。

② 杉板を焼く。

- ・ できるだけ裏表とも均等に焼く。焼き過ぎると板が反ったり、形がくずれたりする。
- ・ 板の角や横の部分をよく焼くようにすると、やわらかな線が出る。
- ・ 板を焼いて赤くなっている場合、水をかけたり、たたいたりしない。

③ 黒く焼けた炭の部分をたわしできれいに磨く。

- ・ この作業を確実にしないと、木目がきれいに出不い。繊維方向にこすり、すずが出なくなるまで磨く。

④ 布きれでよく磨く。

- ・ つや出しが主な目的である。

(必要に応じて)

⑤ 絵付けをする。

- ・ 木目や構図により、裏表を決める。
- ・ 全面に色をぬったり、多くの色を使ったりすることは、せっかくの焼板のよさをそこなうことになるのでさける。

⑥ 色の乾燥を十分にさせる。

⑦ 作品を完成させる。

- ・ 焼板の用途に応じて、穴をあけたり、くさりやひも等で装飾をしたりする。(置き物、壁掛け 等)

＜後始末方法＞

- ① 穴のあいていない一斗缶に水を1/3入れる。
- ② かまどの燃えかすや灰などを「十能」と「ほうき」で集め、水を入れた一斗缶に入れ、よくかき混ぜて消火する。
- ③ 灰捨場に一斗缶の中身を水ごと捨てる。
- ④ かまどの床のゴミを外に掃き出し、レンガ等を整頓して終了。